



学校だより

はと広場

12月号

平成30年11月30日

さいたま市立北浦和小学校

TEL 048-831-2463

親の姿がお手本 教師の姿もお手本

校長 益子 聡

子育てをテーマにした「家庭教育学級（小学校）前期」（主催・北浦和小PTA、北浦和公民館）が11月6日、北浦和公民館で開かれました。私が「子育てを応援します」と題して講演。親が家庭で子どもに教えておくべきルールについて、家庭でのしつけと家の外でのしつけの二つを柱に話を進めました。

家庭でのしつけとして〈・呼ばれたら相手に届く声ですぐに「はい」と返事をする・玄関は家の顔だから、脱いだ靴は揃えておく・家族のお客様には「こんにちは」と言う〉など45項目。家の外でのしつけとして〈・人が物を落としたことに気付いたら教えてあげたり拾ってあげたりする・友だちに痛い思いをさせたらわざとではなくても「ごめんね」と言う・身体の発育上からも、背筋を伸ばして座る〉など25項目のルールを紹介しました。

子育てに関する私の講演は昨年引き続き2回目。本校の保護者や地域の方約70名に話を聞いていただきました。講演の中で、子育てに関する私のイチオシの本として『子どもが育つ魔法の言葉』という本を紹介しました。

◆ 皇太子殿下がご紹介された詩

〈けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる〉で始まる詩をご存知の方もいることでしょう。アメリカの家庭教育学者ドロシー・ロー・ノルト博士の『子は親の鏡』です。かつて、皇太子殿下がご自身の子育てについて紹介された詩の作者でもあります。静かながら力強く、そして優しい詩の言葉に、心を動かされる方も多いと思います。

〈とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる…〉と続く詩の前半は、－（マイナス）の方向の子育てについて。後半は一転して〈励ましてあげれば、子どもは、自信をもつようになる…〉など、＋（プラス）の方向の子育ての理想が語られています。

詩を基にした博士の著書『子どもが育つ魔法の言葉』（共著、PHP文庫）は世界中で愛読され、日本でも120万部を超すベストセラーとなっているそうです。詩の一行一行をテーマとし、親子の具体的なやりとりを交えながら、博士の理論や見識に基づき、様々な場面で子どもにかけべき言葉を基本から手ほどきしてくれます。どの話にも共通しているのは、子どもと正面から向き合うことの大切さです。

◆ 親の姿を手本として育った 北浦和小の子どもたち

私（校長）； 運動会の演技、動きが大きくて、じょうずにできていたね。

子（1年生）； ありがとうございます。

私（校長）； コンサートの合唱、気持ちが入っていて、素敵だったよ。

子（4年生）； ありがとうございます。

本校の子どもは〈ありがとう〉が、すっと出てくると強く感じています。ニコッとしながら私の目を見て、はっきり大きな声で「ありがとうございます」と言えるかわいらしい振る舞いにも心を打たれる毎日です。

〈ありがとう〉という心が潤う言葉が自然に出てくるようになるということは、学校の指導で身に付くものではありません。基本となるのは、子どもが幼い時からの家庭での育てられ方と、普段からお互い自然に「ありがとう」と気持ちを伝え合っている、子どもたちを取り巻く家族やご近所・地域といった環境のよさの賜物だと感じています。

ノルト博士の詩の中に〈やさしく、思いやりを持って育てれば、子どもは、やさしい子に育つ〉という言葉があります。博士は、この言葉の説明として〈ありがとう・ごめんなさい〉といったやさしい言葉を日頃から口にし、お互いに助け合って暮らしている親の姿を見て育てば、子どもはそれが人と人との付き合い方だと思ふようになり、相手を思いやる気持ちが、ちょっとした仕草や口調に表れるようになる〉と述べています。本校の子どもたちの〈ありがとう〉も、家庭を柱とした温かな子育ての成果の表れではないでしょうか。

北浦和小では、これからも、家庭や地域の皆様が積み重ねてきた子育てと子どもへの思いを教職員が我が事として受け止め、子どもたち一人ひとりの親となり、やさしく思いやりをもって教え・伸ばしてまいります。

紙幅の都合上『子は親の鏡』の詩すべてを紹介できませんでした。時間があるときに原文に当たってみてください。今以上によい親になるためにはどうしたらよいのか、その知恵を学ぶことができることでしょう。